

## (1) ②様式第1号—2 (計画書)

※A4判、2頁を超えない(両面印刷1枚)、縦方向、横書き、11ポイントで作成してください。

※「1案件概要」は機構ウェブサイト(<http://www.nits.go.jp/education/nitscafe/>)で公開します。

### 教職大学院と教育委員会の連携・協働支援事業 (NITS カフェ) (第3回申請)

#### 1 案件概要

(1) セミナー名：【NITS カフェ in 福島】

主タイトル 学びのリフレクション (12文字以内)

副タイトル 福島県の新たな教育実践へ (16文字以内)

(2) 開催日時：平成31年3月13日(水) 13時30分～16時30分

(3) 開催場所

施設の名称：ホテルグリーンパレス福島

住所：福島市大田町13-53

(4) 参加予定人数と参加者の属性

福島県教育委員会(義務教育課主任指導主事、高校教育課指導主事、特別支援教育課指導主事、教育総務課指導主事)各1名

福島大学教職大学院学生 31名(現職教員18名含む)

福島大学教職大学院教員 10名

福島県教育センター研究員 14名

福島県教育センター研究・研修部長他 5名

福島県特別支援教育センター研究員 2名

福島県特別支援教育センター主任指導主事 1名

(5) 登壇者(講演者、発表者、パネラー、ファシリテーター等)

話題提供者(1名)

福島県教育庁教育総務課長 高橋洋平氏

テーマ：福島県の教育施策とミドル・リーダーの役割

(6) テーマ：

福島県の将来のミドル・リーダーとして、長期研修による学び(研究)を振り返り、学び続ける教員としての資質能力形成に資する。

(7) テーマの詳細などの企画概要

1. 教職大学院の設置意図に沿った企画である

教職大学院の設置時、県教育委員会は、教職大学院に派遣する現職教員については、①「ふくしまの新しい教育を自分がつくる」という高い志を持つ教員、②マネジメント力を持ち、ミドル・リーダーとして学校を支える教員、学部新卒学生については、幅広い視野を持ち、即戦力として活躍できる教員になることを期待してきた。また、本大学院は、育成すべき4つの資質能力(A:マネジメント経験を積みながら省察する実践力、B:高度な授業力、C:アクティブな理論的探究力、D:新たな教職への自覚と強い責任感)を掲げてきた。とりわけ、実践と理論を往還させて学んできた現職教員や学部卒院生は、学び続ける教員としての資質能力を常に発揮

することが求められる。

## 2. 2年間の研修の振り返りによる教員としての自覚を高める

福島大学教職大学院は、今年度に完成年度を迎え、3月には、第1期生を輩出する。平成31年度からは現場に戻り、福島県の教育を支える授業研究や学校運営に関わるミドル・リーダー、あるいは未来のミドル・リーダー（学部新卒）としての役割を果たしていくことになる。この修了時期に、2年間の学び（研究）をリフレクションし、学んだ成果を福島県の教育に還元することが求められているだけでなく、ミドル・リーダーや即戦力としての役割を担うことが期待されており、その自覚を高めることが必要である。

## 3. 福島県の教育施策と関連づけて学びを振り返る

この機会に、福島県の教育施策やミドル・リーダーとしてどのような役割を期待されているかを理解するとともに、長期研修を終えた現職教員や学部卒院生が理論と実践を往還する取り組みの成果から学んだことのみならず、長期研修や院生生活が果たしている役割を交流することを通じて振り返り、教職への新たな自覚と責任を再確認することはとても大切な事である。

## 4. 共同の取り組みを通じて、同僚性を高める

本企画に参加する、教職大学院学生と福島県教育センター及び特別教育支援センターの研究者とは、平成29年度、平成30年度に各1回ずつ、研究交流をしてきており、来年度、教育現場に戻った折には、ともに研究してきた同僚として、福島県の教育実践と研究・研修を支える役割が期待されるだけでなく、教育現場での同僚性の構築に大きな役割を担うことが期待されており、その交流を深めることが必要である。

## (8) 進行プログラムの概要

1. 福島県教育委員会総務課長より、県全体の施策と重点項目について話題提供（30分）
2. 2年間の研修を振り返り、その成果と課題を小人数グループ形式で交流する。（90分）
3. 自由討論（グループをばらばらにし、自由に振り返りを促す）（30分）
4. 各機関からミドル・リーダーへの期待を述べる（5分×3＝15分）

## 3 参加者の募集方法

※参加者の募集方法を具体的に記載してください。

各機関に対して、電話及びメールにて募集する。